

2019 年度 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表 2020 年 5 月 15 日

特定非営利活動法人ワークレッシュ 児童発達支援・放課後等デイサービス フェイス

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善内容又は目標、工夫箇所など
環境 ／ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			移転により、児童の休息のための個室が確保された。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			施設内はバリアフリーではないが、手すりや間仕切り等の設備が充実した。
業務 改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			全ての従業員に対して人事考課制度を導入し、半期毎に評価している。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			H27(2015)年度から保護者アンケートを実施している。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			●	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			月 1 回以上の会議と研修を実施した。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			子どもと保護者との面談を年 2 回以上実施した。
適切 な 支 援 の 提 供	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			児発管と主任指導員が中心となってプログラムを立案・推進している。保育士・児童指導員が引き継いでいる。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			個人の目標や特性や希望をもとに集団のテーマを設定し、天候や参加人数を考慮した上で、月毎・週間、日々のプログラムを実践している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			自由遊びや諸々の生活時間を含めて、本人の意思と希望を考慮した直接支援をおこなっている。

15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			1週間分の見通しを立て、当日のリーダーや記録係他、役割を分担し共有している。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			ICTツールを活用し、翌日までに全員への情報伝達と記録・報告を共有している。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し支援の検証・改善につなげているか	○			2019年度初めにフォーマットを改訂した。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			相談支援専門員、学校教諭、併用事業所ともケース会議等を行った。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			研修等で再度読み合わせと確認をしたい。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			児童発達支援管理責任者と主任児童指導員、管理者が参画している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			事前・事後の予定変更の確認や遅延の可能性も含めた情報伝達に努力しており、保護者・学校からも積極的に情報提供を得ている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			●	医療機関との連絡は十分とは言えないが、緊急時の治療において協力を得られた。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			保育所等訪問支援を開始することで、一層連携を進めていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか				2019年度対象者無し
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			●	受入れ人数に比して、前年度より連携度や関係性が低かった。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			当事業開設の目的のひとつであり、他部門事業との地域連携の効果は大きい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○			管理者が障害児通所専門部会の代表として参画した。交流行事や研修を実施した。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡帳、メールを始めとして、送迎時の懇談や電話相談を日常的に行っている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			特別なメソッドの提供はしていないが、懇談の他、保護者向けの講座や交流会を継続している。	

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			事務担当からも定期的に連絡している。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			子育てに関してだけでなく、心配ごとをいつでも相談してもらえる関係性を築いていきたい。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			個々の家庭への対応と、保護者との信頼関係構築に注力しながら、保護者交流会や親子参加の企画した。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		●		当事者や関係者との相談の機会を持つなど、多くの時間を必要とすることがあった。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			法人の会報に事業報告等を掲載している。また、毎月メールとブログで左記についてのお知らせを定期的に配信している。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	○			同意書以外にも、適宜確認している。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			電話または対面では、視覚支援を用い、記録を共有するようにした。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			当法人他部門事業への参加を中心に交流している。夏まつりや地域のイベントにも役割意識をもって積極的に参加した。
非常時等の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		●		移転先における各種マニュアルを改訂する。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			ケガの応急処置等も含め、児童の対応力を養うため繰り返しの実施が必要である。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止委員会主催の全体研修を実施した。他法人主催の研修に参加し、伝達研修を行った。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			経過報告書の内容を確認している。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			記録・報告は ICT ツールを活用し、全従業員に周知、再発防止を徹底している。

○・はい = 黒字 ●・どちらともいえない = 青字 ●・いいえ = 赤字